「正信偈」について（第三回）

正信偈の教え上　古田和弘、正信偈のこころ限りなきいのちの詩　戸次公正、等による

法蔵菩薩因位時　　法蔵菩薩の因位の時、
ほうぞうぼさいんにじ

在世自在王仏所　　世自在王仏の所にましまして、
ざいせじざいおうぶっしょ

観見諸仏浄土因　　諸仏の浄土の因、
とけんしょぶじょうどいん

国土人天之善悪　　国土人天の善悪を観見して、
こくどにんでんしぜんまく

建立無上殊勝願　　無上殊勝の願を建立し、
こんりゅうむじょうしゅしょうがん

超発稀有大弘誓　　稀有の大弘誓を超発せり。
ちょうほつけうだいぐぜい

五劫思惟之摂受　　五劫、これを思惟して摂受す。
ごこうしゆいししょうじゅ

重誓名声聞十方　　重ねて誓うらくは、名声十方に聞こえんと。
じゅうせいみょうしょうもんじっぽう

［意訳］

法蔵菩薩が阿弥陀仏になられる前の地位におられたとき、
世自在王仏の所で教えを受けておられて、
あらゆる仏の浄土の成り立ちと、
諸仏の国々の人々の良し悪しのありさまを見定めた上で、
この上ないすぐれた願いを立てられ
かつてない大いなる誓いをおこされた。
五劫というはるかな時をかけて思いをめぐらせてこれを
確かめられた。

重ねて誓いをたてられ、ご自分の名が十方に伝わるよう願われた。

阿弥陀仏が仏に成られる前、法蔵という名の菩薩であられた時、ひたすら、生きることの意義を明らかにし、人々を救いたいという願いから、世自在王仏という名の仏に仕えて教えをお受けになられた。

菩薩は、世自在王仏がお示しになった多くの仏の浄土と、それらの浄土に生きる人々のことについて、善・悪ことごとく観見、すなわちそれらをはっきりと見究められた。

その上で、法蔵はいよいよこの迷い多い生死の現実が痛ましくなり、共に生きたいと願う者すべてが生まれることのできる極楽という浄土、安楽の国土を建立しようという、この上ないすばらしい願いを打ち立てました。

たすかるはずのない凡夫を何とかしてたすけたいというこの願いを、気が遠くなるような、途方もなく永い時間、「五劫」の時間をかけて法蔵菩薩は思案されて、四十八項目の誓願を選び取られました。

そして、「私の名声をあらゆる処にゆきわたらせたいが、もし私の名が聞かれないことがあるならば、私は仏に成りません」という誓いを始めとして、もしこの四十八の願いが全て成就されなかったならば、私も永遠にさとらない、仏にはなるまい、といういまだかってない大きな弘い誓いをおこしたのです。

合掌